

♪ 令和3年度早川南小学校だより ♪

はるき



令和4年3月14日

No.41

校長 河西弘明

吹奏楽活動に関して、学校としての考えをお伝えします。

春らしい暖かな日が増えてまいりました。年度末となり、子どもたちは、まとめの学習や活動にそれぞれ頑張ってお過ごしております。本日は、大切な話をさせていただきたいと思います。

今年、51年目を迎えた本校の吹奏楽活動ですが、児童の豊かな心の育成を目的に、音楽性の醸成はもとより、これまで素晴らしい活動実績と貢献を行ってきました。町のご理解も本当に厚く、多くの援助と協力をいただいていることも、半世紀を超えて継承できたことの大きな要因でもあります。

発足当時は、県下に先駆けての小学生の吹奏楽活動であり、創生期には吹奏楽コンクールへの出場を一つの目的として活動し、関東大会に出場するなど素晴らしい成績も残してきました。保護者の皆様の中にも、本校の卒業生がいらっしゃると思いますが、当時のことはきっと記憶の中に思い出として残っていることと思います。

その後、より音楽表現に重きを置くために、バンドフェスティバルでの全校児童による表現活動に演奏スタイルを移行しました。児童が楽しく、意欲をもって活動することを第一の目的に、長きにわたり取り組んできました。昔は、児童だけで演奏していましたが、児童数の減少と共に先生方も演奏に加わり、師弟同行で音楽に取り組むことを、本校はずっと続けてきました。その発表を、毎年心待ちにしてくださる方も大勢いてくださいます。その長年の活動と今年のメンバーでの演奏が認められて、今年は19年ぶりとなる東日本合奏フェスティバルへの県代表推薦をいただくことができました。本当に嬉しい出来事でした。

しかし、ここ数年は、児童数の減少がより一層顕著になり、何とか維持してきた活動も、将来的にどうしていくことがよいのか、考えていかななくてはならない状況となってきているのも現実問題としてあります。

ここ数年間の児童数(演奏者数)の変遷は、次のような状況です。

(人)

年 度	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計
2018(H30)	4	5	3	5	17
2019(R1)	2	6	6	4	18
2020(R2)	1	2	6	7	16
2021(R3)	4	1	2	6	13
2022(R4)	1	4	1	2	8
2023(R5)	3	1	4	1	9
2024(R6)	2	3	1	4	10
2025(R7)	1	2	3	1	7

この推移をみると、本年度を境に、来年度は一桁数となってしまい、令和元年度と比べると半数以下です。これは、児童一人一人への負担が、より大きくなることを意味しています。また来年からは、児童の演奏者数より教員の演奏者数が多くなって逆転することになり、児童主体の演奏ではなくなってしまいます。現在の編成を維持するには、ある程度、楽器の種類(パート)を揃える必要があり、どのパートも今と同じ編成(管楽器4パート、打楽器1パートの計5パート)にすると、学年によっては、パートに欠員が生じるなど、バランスも難しくなります。必然的に、少人数のパートへの負担も増加してしまいます。

また、ここ数年の学校評価においても、保護者から、吹奏楽活動に関するご意見の声も毎年届けられています。

「いろんなお子さんもいるので、伝統というだけで続けていく必要はないかなと思います。」(R1)

「児童数の減少で、今後も続けていけるのか・・・検討の時期に来ているのでは!？」(R2)

「これから子供も少なくなり、吹奏楽も難しくなっていくと思います。伝統とかも大事かもしれませんが、子供、先生方への負担も増えてしまうと、楽しいことも苦痛になってしまうのではないのでしょうか。少人数でできる事に切り替えるなど考えた方がよいのではないのでしょうか。」(R3)

など、児童数の減少が負担の増加につながることへのご心配の声や、状況に合わせて活動内容について見直してほしいというご意見があります。

このような状況をふまえ、学校として、吹奏楽活動についてどうしていくことがよいか、校内だけでなく、町教育委員会とも、この一年をかけて相談してきました。

その結果、今後の方向性としては、本校の特色ある吹奏楽活動を、徐々に、広い意味での音楽活動に形態を変えていく方向にしたいと考えております。

吹奏楽器は、やはりある程度の演奏力をつけるためには、時間をかけて練習に取り組まなくてはなりません。その際に、上達しようと努力する姿勢を身に付けたり、継続して一つのことに取り組んだりすることで、教育的効果は大きなものがあると思います。しかしながら、本校のように仲間と一緒に練習したり演奏したりするスタイルでは、ある程度の人数が揃えば互いに補い合うこともできますが、人数が少なければ少ないほど一人一人に対する比重は高くなり、これまでのような演奏を続けていくには相当な練習量と時間と努力が必要になってきます。

一方、音楽の授業で使用する楽器は小学生用に用意されているもので、比較的時間をかけずに演奏したり、仲間と一緒に合奏したりすることは容易です。「音楽」という広いジャンルで考えれば、楽器の違いはありますが、音楽的な素養を身に付けることに違いはそれほどありません。

また、この2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、特に吹奏楽活動にとっては、練習がままならないほど影響が大きいです。現在も、1月下旬から全く練習ができておりません。今後、収束した時には、通常の活動ができる日が来ることもあると思いますが、現在のところ、これまでのような年間を通した計画的な活動をするには、なかなか難しい状況もあります。

本校としては、来年度を、吹奏楽活動から音楽の授業の延長線上にある器楽合奏であったり、少人数でもできる合唱活動などへの移行を見据えて、吹奏楽活動に区切りをつける1年としたいと考えております。本来であれば、PTAなど、保護者の皆様の集まる機会を通して、直接ご説明すべき内容だと思いましたが、集まれる状況を設定できませんので、このような形でお伝えさせていただきましたこと、ご容赦いただきたく思います。何か、吹奏楽活動に関してのご意見やご質問等があれば、遠慮なく学校までご連絡いただければ幸いです。

保護者の皆様に、ご理解をお願いすると同時に、本校の音楽活動の新たな未来に向けて、これまでいただいておりますご支援とご協力を、今後もお願いさせていただきますと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

東日本の演奏収録全景(1月18日)

